

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価計画書】**

中学校区におけるめざす子ども像 ○自分も人も大切にする子ども ○主体的に考え、行動できる子ども ≪時を守り 場を清め 礼を正す≫

堺市立 三国丘中学校
校長 吉岡 哲郎

令和7年度 重点目標
《令和7年度 堺市学校園運営における指針》【1】「総合的な学力」の育成 【2】不登校の子どもへのサポート【3】つながる教育の推進【4】えがおあふれる学びの場づくり（基本施策1， 7， 8， 11）
《学校目標》①時を守り 場を清め 礼を正す ②主体的な学びの場の創造 ③防災という教育を通して“命”を学ぶ

「確かな学び」の現状

全国学力・学習状況調査より、生徒に必要な資質・能力のうち「知識・技能」については、学習に一定の成果が認められる。「思考力・判断力・表現力等」については、課題があり、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図り、主体的・対話的な深い学びの視点からの授業改善が求められる。また、教師の生徒理解能力、コーチングマインドなどの基礎的能力の向上のための研修の充実を図り、学校力アップに繋げる。

「豊かな心・健やかな体」の現状

全国学力・学習状況調査より、「将来の夢や目標を持つ・難しいことでも挑戦する・やり遂げようとする・人が困っているときは進んで助ける」など、個人的な心情・人間性の観点では肯定的である。一方で地域活動への参加など主体的に社会の形成に参画する態度（主権者教育的）の育成に取り組んでいる。。具体的に学校行事や生徒会活動の取組、地域と連携した取組を推進し、地域との関りを実感し、未来の社会を創ることができるというマインドの醸成に努める。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)		達成状況（年度末）			
									自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	主体的・対話的な深い学びの視点で授業改善を図る。 【1】「総合的な学力」の育成	●研究授業の実施など、研修体制の充実を図る。	研修計画に沿って、 <u>複数回の研修</u> を実施する。	実施状況	年度末						
			授業中の調べる場面、意見交換や自分の考えをまとめ発表する場で ICT 機器を活用する。	発表などの場で ICT 機の活用する場を各学年で年3回以上設定する。	実施状況	年度末						
	小中連携	小中一貫カリキュラムの基盤作り (学びの連続性) 【3】つながる教育の推進	●★中学校区の小・中学校の校長を中心に2小1中の教職員内の合意形成を図る。	①学期に一回以上、2小1中の校長会で定期的な意見交換の場を設定する。 ②令和7年度の「めざす子ども像」を共同作成し、関係者に周知する。	実施状況	① 年度末 ② 1学期末						
豊かな心・健やかな体	特別活動	① 時を守り 場を清め 礼を正す ② 主体的な学びの場の創造	●・特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事）を、主体的に社会の形成に参画する態度の育成の視点で実施する。 ・生徒会活動を中心の取組の推進。 ・校舎改築に伴う部活動の見直し。	①「子ども堺学推進事業」など市の施策を活用（生徒会活動）。 ②3年間の特別活動の <u>成果発表の場</u> を作る（学校行事）。 ③部活動検討WGを開催、R8以降の方針を作成する。	実施状況	① 年度末 ② 1学期末						
	学びの機会の確保	【2】不登校の子どもへのサポート 【4】えがおあふれる学びの場づくり	●★不登校、いじめなど課題について、中学校校区の校長・担当者を中心に学校群として取組。一人ひとりの安全・安心が守られた居場所づくりを地域と協働して進める。	①不登校・いじめに関する理解を深めるため、学期に一回の定期的な意見交換の場を設定し、小中合同の夏季研修を実施する。 ②不登校・いじめの件数減を目標とせず、 <u>状況改善への手立て</u> の工夫・向上があったか、子どもや子どもを取り巻く教育環境が改善されたかを評価基準とする。	実施状況 及び 年度末の結果報告	年度末						
地域連携	信頼される学校づくり	③防災という教育を通して“命”を学ぶ	●★青少年健全育成会の活動を再開し、「防災という教育を通して“命”学ぶ」をテーマとした活動を推進する。	地域・保護者が子どもの成長を支援する意識の向上や喜びに繋がる学びの場としての「 <u>講演会</u> 」を実施する。	実施状況	年度末						
校長より（年度末）									学校関係者評価者から（年度末）			